フィラリアについて

1　フィラリアって何ですか

フィラリアは犬糸状虫といわれ、犬の心臓に寄生する長さ１２～３０㎝ほどの白くて細長い虫です。主に犬に感染しますがフェレットや猫も感染します。

これはフィラリアの子虫を持った蚊に刺されることで感染します。幼虫は皮膚から血管に入り６ヶ月間脱皮を繰り返し、最終的に心臓に寄生します。成虫の寿命は５～６年です。

フィラリアが寄生すると心臓で血液を送り出すポンプ機能が低下し、血液の流れが悪くなることでさまざまな症状が出てきます。咳をしたり肝不全、腎不全、腹水症、貧血等の重篤な症状が発現し、最終的には死に至る大変恐ろしい病気です。

予防をしなければ、この東信地方ではほぼ１００％感染します。

2　どのようにして感染するのですか

蚊が媒介します。

犬の心臓にオスとメスのフィラリアが寄生しこれらが交尾することにより、血液中に体長0.2～0.3mm のミクロフィラリアが産出されます。これらは血液と一緒に全身を移動し、夕方になると皮膚の血管に集まり、蚊に血液と一緒に吸われます。

蚊の中でミクロフィラリアは２回脱皮し感染子虫となり、犬の血を吸う時に感染します。感染子虫は皮膚から徐々に血管に移動し、６ヶ月間脱皮をしながら成虫になり、最終的に心臓に寄生します。

3　予防方法を教えてください

まず、フィラリアに寄生されていないかどうか検査を受けてください。フィラリア症の薬として処方されるものは、フィラリア虫の駆虫薬です。すでにフィラリアに寄生されている場合、その薬を飲むことで体内の虫が死にます。血中に多くの虫が存在し、その虫が全部死んでしまうと、虫を含んだ血液は肺に流れ込み肺の細い血管が詰まって、最悪の場合ショック死してしまう可能性があるからです。感染していないことがわかったら、フィラリアの予防薬駆虫を実施します。

フィラリアの予防薬は、

①月に１回薬を飲む方法

②1 回打つと６ヶ月間効果が持続する注射を打つ方法

③背中に薬品をたらして駆虫する方法　　があります。

このうち背中に薬品をたらす方法は今年からできてきた新しい方法であり、まだ不安が残るため、当院では今年の使用を見合わせています。また、注射による方法は昨年から導入された方法なのですが、昨年の秋頃になってアレルギーなどが起こっているという報告が出てきたため、今年は使用しません。ちなみに、投与方法は６ヶ月しか効果が持続しないので１ヵ月分を内服にするか、年２回接種すれば確実に予防できます。

以上のことから、フィラリア症の予防薬は従来どおり、月に１回薬を飲む方法が安全で確実です。投与期間は蚊が発生して１ヶ月後から蚊がいなくなる１ヶ月後に飲み終わるのが効果的です。この駆虫薬はある成長段階の虫にしか効果がないため実際の蚊の発生時期より１ヶ月ずれます。この東信地方では５月下旬～１１月下旬までの７回投与により１００％予防できます。